

それと同様に、大半の人々がスタジアムで、国の至る所で好まれるスポーツを楽しむ妨げになる。なぜなら余りにも高価であるからだ。

そもそもなぜ行くのかと尋ねたくなる。どこかで神に祈り、犠牲を提供できないのか？
そうであるが、古代の人々はそうではなかった。人々はエルサレムへ行き、過越しの祭りで自身を清める旅をしなければならなかった。神殿は神が宿られる場所なので旅に出た。人々は神殿の中に神が存在されていると信じていた。この世の神は、カーテンの背後に隠された至聖所（ユダヤ神殿の一番奥にある最も神聖な場所）が中心となって存在していた。イエスが現れ、神殿を打ち壊し3日で立て直すと話し始められた。
人々は建物を意味していると思ったが、イエスはご自分の死と復活を述べられていた。

神は至聖所の中心にはもう存在されていなかった。神（イエス）はそこで細縄で鞭を作り、祈り場という名のもとに過評価された動物たちを追い出された。制度は破られた。神はイエスを遣わされ、人類はその制度のなかに囚われることはなかった。

この事はどのすべての人も、神との関係を結ぶことができるという意味がある。
イエス・キリストにあるすべての人々に手を差し伸べておられる神の招待を、誰が受けることができるのか、できないのかを決めるのは私たちでなく、どんな物売り、教会委員、会員カードでもない。

神の栄光は、私たちの周辺に、私たちの心の中に、そして私たちのためにある。
過去一年間は教会の外にあった私たちであったが、私たちが何かを学んだのであれば、神は教会という建物の中で、人々が神に近づくのを座して待っておられるのではない事だ。神はこの世界で、その外で、私たちが望まない所でも、活動されている。
従ってイエスに従う者として、私たちがそこに存在すべきなのだ。

ワクチンの普及や社会的距離の解除を待っているのだが、各々が共に、あるいは一人で、祈りの時を持つてみる。そして私たちが再び対面で集まれる時、聖十字教会の宣教が何であるかの答えを神から求めよう。私たちは未来の基盤をすでに整えた。
託児所の計画は地域社会へ私たちの門戸を開き、近隣の家族がもっとも必要としている公益事業を提供する。では何をするのか？ 神は障害を取り除く事を求めている。
そうすれば人々は教会に来て、私たちと礼拝を捧げる。奉仕するためにどこの地域社会へ遣わすのを神はお望みなのか？ ともあれ、収支バランスが取れなくても伝統を維持しつつ教会は存在する。教会は神を賛美し、イエス・キリストの言葉と行いの福音を述べ伝えるために存在する。私たちは予期されないところへ出て行く必要があるだろう。
このことが大斎節中に準備ができるように共に祈ろう。アーメン。 （文責長澤猛）

私たちは怒りのイエスを対処することに慣れていない。イエスを優しい羊飼いとして心や芸術の中に描こうとする。喜んで迎えて下さる御顔が穏やかに私たちを見守って下さる。しかし今日は神殿で怒りのイエスが現われる。もしイエスが日曜日の朝、私たちの教会にやって来られ、お怒りになったなら何がそうさせたかを知りたいと思うだろう。すべての私たちは、大なり小なり怒りに対処している。食器洗浄器にはどのように並べるかの小さなイライラごとから、先週の日曜日に行われた抗議活動、“バンクーバーを死滅から守る (Extinction Rebellion Vancouver)” のような大規模な運動までである。人々が怒る時は、しばしば行動に出る、ある時は何も考えずに。

今回のイエスの心は明白であられた。父の家である神殿で、イエスが目撃されたことに対応されたのだ。細縄でむち作り、そこに存在するものを追い出されているのが目に映る。この物語りのヨハネ訳を再び見てみよう。イエスは人々を追い出されていないのだ。イエスは羊と牛だけを追い出されたのだ。イエスが対応されたのは、人々、権威ある者、パリサイ人に対してではなかった。イエスは制度に対してお怒りになったのだ。両替人や物を売る人は、欠くことのできない業務を提供していた。人々が犠牲（生け贄）を捧げるために神殿へ参拝した時、神殿税を納めるのに持参したシーザーの顔が描かれたコインを、ヘブライコインに交換した。人々は律法に沿って犠牲の家畜を購入した。

イエスがここで遭遇されたのは、現在の大きなスポーツ試合に出かけるようなものだと私は想像した。例えば、幸運にも Rogers 競技場で Canucks の試合を観覧できるなら、チケットの価格が（一番安いチケットでも）\$100 近くになるのを知っているだろう。イエスの時代、神殿に参拝した多くの人々は遠距離を、ある者は徒歩でやって来た。それは時間と財力を費やし、その旅路は強盗や食物や水の欠乏リスクがあった。スタジアムに到着して人々はささげもの (sacrifices) を購入できる観客席に向かう。バンクーバーでは 1 パイント（約 500cc）のビールが平均 \$6-8 であるが、スタジアムではそれが突如、飲むカップのサイズにもよるのだが、\$15-20 に跳ね上がる。小売り業者は熱狂的な観客がいる時、その人達はその代価を支払うことを知っているのだから、価格を吊り上げようとする。競技場の観客は、高価なチケットを購入し、高値のビールでも買える裕福な人々、あるいは競技場へ足を運ぶのは 1 年に一度のことだから、あるいは一生一度のことだからとする人々のどちらかである。従って充実した体験を得るために、進んでお金を手放す人々である。同様にこれは寺院に起きたことだと想像する。汚れない小羊、もしくは二羽の鳩を必要とする敬虔な参拝者は、神に捧げるために割高の価格を支払うのだ。このことは最貧困の人々にとって、神殿を参拝する障害となる。これは犠牲を捧げる巡礼の旅で、神の恵みを求める人々の障害だったかもしれない。